

多くのサマリア人がイエスを信じる

ヨハネ福音書4:39-42
【新改訳2017】

- 4:39 さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことばによって、イエスを信じた。
- 4:40 それで、サマリア人たちはイエスのところに来て、自分たちのところに滞在してほしいと願った。そこでイエスは、二日間そこに滞在された。
- 4:41 そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。
- 4:42 彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」

【祈りながら考えよう】

- (1) 多くのサマリア人が、イエスを信じたのは何によってですか。
- (2) サマリア人たちは、イエスに何をお願いしましたか。
- (3) 多くのサマリア人が、イエスを「世の救い主」と信じたのは何によってですか。

【解説】

(1) サマリアの女の変化

サマリアの女は、主イエス・キリストとお会いし、主が彼女の過去をすべてご存知であったことを知って驚いた。しかし主は、彼女の過去を責めるわけではなく、むしろ暖かく彼女を受け入れて下さったので、彼女は主を心から信じた。

食物を買いに行っていた弟子たちが町から帰って来ると、彼女は水を汲むために持って来たその水がめをそこに置き、スカルの町へ行き、人々に主のことを証した。それまで人を避けて生きてきた人が、人々の所へ出かけて行って、主を証しするほどに変えられた。この婦人の証しを聞いた人々は、それに対してどのように反応したのか。

《さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことばによって、イエスを信じた》(39節)

どうして彼女の証しを聞いて、町の人々は主イエスを信じたのか。

それは、彼女が変わったのを見たからである。それまでは、彼女の評判は決して好ましいものではなかった。だから、人々は彼女の言うことを信用しなかったであろう。

しかし、人の目を避け、日陰者として生きてきたその婦人が、今や人の目を避けるどころか、堂々と人々に語り始めた。その証しの言葉は必ずしも雄弁ではなかったかもしれない。しかし、それまでとは全く違った聖さが彼女には見え始めていた。

自分の恥ずかしい過去の姿を誇るわけではないが、隠すことなく、みんなの前にさらけ出すその姿には、それまでの彼女とは全く違った生き生きと輝くものが見えた。

どんな人でも、主イエス・キリストとの出会いを経験し、主の恵みによって生まれ変わり、新しい人生に入れていただく時、第三者にも分かるほどの変化が起こる。それは、次のように教えられている通りである。

《だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。

古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました》(Ⅱコリント5:17)

このように、私たちが他の人に証しをする場合、当然それは言葉による証しであるが、その言葉が力を持つためには、生活が変わるといふことがなければならない。生活が変わるといふことが背後にあって、はじめてその人の語る言葉が力を持って聞く人に衝撃を与える。

(2) 二日間滞在された

《それで、サマリア人たちはイエスのところに来て、自分たちのところに滞在してほしいと願った。

そこでイエスは、二日間そこに滞在された》(40節)

サマリアの女の証しを聞いた人たちは、主イエスのところにやって来るが、彼らは自分たちのところに滞在して



ほしいと、主に願っている。主は、彼らの願いに答えて、そこに二日間滞在された。主は求める人たちのところに滞在して下さる。そして、その町の人たちは、それまで間接的にその女から聞いてきたのとは違って、じかに主に接し、主から聞いて、「さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。」

(3) 世の救い主だと分かった

サマリアの人たちは、その女にこう言っている。

《もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。

自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです》

このように本当の信仰は、主イエス・キリストにお会いし、確かにこの方は救い主であると信じる必要がある。どんなにキリストについての人間の証しを聞いても、キリストにお会いしなければ、本当の信仰は生まれません。

この人たちが、イエスのことを、本当に「世の救い主」だと分かったのだと言っていることは、注目すべきこと。

「救い主」という言葉は、余り使われる言葉ではなかった。これは、旧約聖書においては、神に対して使われた言葉である。新約聖書においても、この言葉が最初に使われるのは、ピリピ人への手紙の中において、次のように使われている。

《しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、

私たちは待ち望んでいます》(ピリピ3:20)

イエスがキリスト、すなわちメシアであるという言い方は、使徒たちの手紙の中にも、また福音書の中にも出て来るが、救い主であるという言い方は余り見当たらない。

それを、サマリアの人たちは、事もなげに、本当に「世の救い主」だと分かったのだと告白している。つまり、自分を救ってくださった個人的な救い主であるだけでなく、全世界の救い主であるという、実に大きなスケールを持った告白である。

(4) 異邦人の信仰の告白

聖書を見ると、神の選民であるユダヤ人の中に混じって、異邦人がすばらしい信仰の告白をしていることがある。サマリア人は必ずしも異邦人とは言えないが、ユダヤ人の目から見れば、半分異教的な混血の人たちであった。

そのサマリア人が、このように驚くべき信仰の告白をしている。異邦人の女であったルツが、すばらしい信仰を告白し(ルツ1:16-17)、ついにダビデ王の曾祖母になった。

新約時代においては、すばらしい信仰を告白して、主イエスに称賛されたローマの百人隊長(マタイ8:5-13)や、同じローマの百人隊長の科尔ネリウス(使徒10章)の信仰のことが記されている。

選民であるユダヤ人は、エリートにたとえることができる。そのエリートであるユダヤ人から軽蔑されている異邦人は、いわば落ちこぼれにたとえることができる。その落ちこぼれであっても、すばらしい信仰の告白をすることができるのだということ、この個所から教えられる。

信仰はエリートだけのものではない。落ちこぼれのものでもある。エリートであるとか、落ちこぼれなどということは、全く関係がない。主イエス・キリストとの本当の出会いを経験する人は、だれであっても、すばらしい信仰告白ができる。

落ちこぼれ人生を歩んでいたひとりの婦人の生き方が変わった時、主はその人の証しを用いて、多くの人を救いに導いてくださった。主が人を用いられるのは、その人の人生が変わる時である。その人の人生を変えてくださるのも主である。主に本当にお会いすれば、主が変えてくださるのである。

(5) なぜ多くのサマリア人がイエスを信じ得たのか

ユダヤ人の少数しか信仰に入らなかった時期に、多くのサマリア人が短時間にイエスを信じたのはなぜか。この場面ではイエスは奇蹟を行ってはおられず、サマリア人の心を開くのに用いられた手段はメッセージだけであった。

ここで教えられることは、神の恵みの一方的な授与である。しばしば、後の者が先になり、先の者が後になる。最も無学で、無知であった者が信じ、救われ、最も博学で、頭のよい人たちが不信仰を続け、失われている。人を回心に至らせるのは奇蹟や特別な経験ではなく、神の恵みである(Ⅰコリント1:20-29)。

ユダヤ人たちはイエスがなされた数々の素晴らしい奇蹟を目にし、多くの説教を耳にしたが、ごくわずかの例外を除いて、悔い改めず、心も開かなかった。

サマリア人たちは全く奇蹟を見ず、ただ二日間、イエスとともにすごただけであった。しかし多くの者たちが信仰に入った。彼らが《世の救い主》を知るに至ったのは、聖霊の恵みの働きで、そのような洞察力を与えられたということである。

